

CONTEMPORARY ART AFTER THE CORONAVIRUS AND ITS ECOLOGY

SESSION 4

Art After COVID-19: The Issues of Expression and Support
from the Perspective of Artists

コロナ以降の 現代アートと そのエコロジー

第4回

コロナ以降の美術とは？
アーティストの視点から見る表現・支援の課題

(English follows)

文化庁アートプラットフォーム事業 連続ウェビナー：「コロナ以降」の現代アートとそのエコロジー ＜第4回＞「コロナ以降」の美術とは？ アーティストの視点から見る表現・支援の課題

文化庁アートプラットフォーム事業では、新しい時代のアートの発信のあり方について議論する「連続ウェビナー：『コロナ以降』の現代アートとそのエコロジー」（全5回）を開催します。

第4回目のテーマは「『「コロナ以降」の美術とは？アーティストの視点から見る表現・支援の課題」です。コロナ禍がもたらしたニューノーマルの中、作品の展示を可能にする美術館やギャラリーという場の物理的な制限、作品輸送や渡航制限など国境を超えた人と物の移動に対する制限は、具体的な表現にどのように影響するのでしょうか。また、コロナ禍が明らかにしたグローバル化や新自由主義が浸透した経済的・社会的構造の脆弱さは、格差社会や人種差別といった既存課題を急速に浮き彫りにし、さらには気候変動問題に向けた国際社会の対応も急務となっています。今回、世界を数ヶ月で変えたパンデミックは、これからの美術表現にどのように反映されていくのでしょうか。また、こうしたアーティストの活動を持続可能にする支援方法とは何なののでしょうか。アーティストの視点を中心に議論します。

開催概要

文化庁アートプラットフォーム事業 連続ウェビナー：「コロナ以降」の現代アートとそのエコロジー
＜第4回＞「コロナ以降」の美術とは？アーティストの視点から見る表現・支援の課題

日時： 2020年12月4日（金）18:30-20:00（開場 18:15）
言語： 日本語（日英同時通訳あり）
主催： 日本現代アート委員会／文化庁アートプラットフォーム事業

登壇者：（姓アルファベット順、敬称略）

- 川久保ジョイ（アーティスト）
- 向井山朋子（ピアニスト／アーティスト）
- 若林朋子（プロジェクト・コーディネーター／立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科特任准教授）
- モデレーター：大館奈津子（芸術公社／一色事務所／日本現代アート委員会 委員）

プログラム：

18:30 -18:35 開会およびご挨拶
18:35 -19:05 登壇者によるプレゼンテーション
19:05 -20:00 パネルディスカッション（質疑応答あり）

<https://forms.gle/czuMbTZDRoQ997R57>

開催趣旨：

本プログラムでは、世界各地の美術館および現代アート関係者にも多大な困難をもたらしているコロナ禍という状況下において、様々な立場の当事者が対峙している個々の課題を通して、どのような問題や可能性を明らかにすることができるのか、ひいては具体的なアイデアの交換やポスト・コロナの時代の海外発信のあり方や将来の共同研究、新しい時代にふさわしい国際的な展覧会のあり方を視野にいれた議論へとつなげていく予定です。

文化庁アートプラットフォーム事業は、日本における現代アートの持続的発展のための基盤作りを目指すもので、そのための試行的取り組みとして、平成30年度と令和元年度に、現代アートの専門家の国際的な相互ネットワーク構築を目的とした、キュレーター、研究者、アーティストなどによる招待制（一部公開）ワークショップを5ヶ年の予定で開催しました。今年度も本事業のステアリングコミッティである「日本現代アート委員会」を中心に、秋にワークショップを実施する予定でしたが、新型コロナウイルス世界的流行を受け、例年通りのかたちでの実施は見送ることいたしました。

一方で、コロナ禍という状況下においてこそ、専門家同士の国際的な相互ネットワークの重要性が浮き彫りとなっています。特に、国際交流や海外発信、国際間輸送、リサーチ、レジデンスなど、国境を越える活動は当面の見通しが立たず、全世界的に諸処の再考を迫られています。そういった状況にどのように向き合っていくことができるのか。

日本の現代アートの国際的評価を高めるという本事業の目的に立ち返り、コロナ以降の国際交流や国際展、キュレーティング、アーティストの支援と表現など、国際的なアート界を取り巻くエコロジー全体についての議論を深めるため、全5回の実施を予定しています。ウェビナーの様子は世界に向けてオンラインライブ配信の形で一般公開し、議論の記録は、令和3年3月に新設予定の文化庁アートプラットフォーム事業のウェブサイトアーカイブする予定です。

文化庁アートプラットフォーム事業とは

「文化庁アートプラットフォーム事業（英語表記：Art Platform Japan）」は、日本における現代アートの持続的発展を目指し、現代アート関係者の意見を幅広く集約し、日本人及び日本で活動する作家とその作品が国際的な評価を高めていくための取組等を推進するものです。

ステアリングコミッティとして「日本現代アート委員会」を設置し、実践的研究を進めるための国際的な専門家ネットワーク構築に取り組むとともに、日本における現代アートに関する重要なテキストの翻訳やウェブサイト等を活用した国内外への発信、全国の美術館を横断した作品情報のデータベース構築に向けた取り組み、若手作家を含めた日本におけるアーティストの国際な活動を後押しする活動を行います。

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/artplatform/index.html

川久保ジョイ

アーティスト

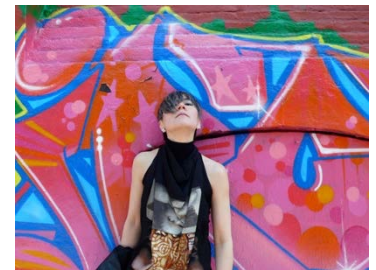
金融業界にてトレーダーを経て2008年から制作活動を開始。写真を主とした平面作品や、エネルギー問題、歴史性、物語性や認知論を主題としたサウンド作品、映像作品、建築介入・空間インスタレーションを主に制作する。近年の主なグループ展に「ヨコハマ・トリエンナーレ2020」（横浜美術館、Plot 48 ほか、横浜、2020）、「六本木クロッシング2019展 - つないでみる」（森美術館、東京、2019）、「21st DOMANI・明日展 - 平成の終わりに」（国立新美術館、東京、2019）、「ヨコハマトリエンナーレ2017」、「VOCA2015」などが、主な個展に2018年「I/body/ghost」（ヤマモト・ケイコ・ロシェックス、ロンドン）「200万年の孤独、さくらと50万光年あまり」（黄金町エリアマネジメントセンター、横浜、2017）、「Stella Maris was a name I found in a dream」（大和日英基金、ロンドン、2016、）「Fall」（資生堂ギャラリー、東京2016）、「二百万年の孤独」（トーキョーワンダーサイト、本郷、2015）がある。2015年VOCA展大原美術館賞、第10回shiseido art egg入選、2011年トーキョーワンダーウォール入選等の受賞がある。※平成27年度ポーラ美術振興財団在外研修員、平成28年度文化庁新進芸術家海外派遣制度としてイギリスにて研修。



向井山朋子

ピアニスト／アーティスト

オランダ、アムステルダム在住のピアニスト/美術家。1991年国際ガウデアムス演奏家コンクールに日本人ピアニストとして初めて優勝、村松賞受賞。アンサンブル・モデルン、アンサンブル・アンテルコンタンポラン、ロンドンシンフォニッタ、ロイヤルコンサートヘボウなどに毎年ソリストとして招聘され、新作の初演に携わる。また、近年は従来の形式にとらわれない舞台芸術やインスタレーション作品を発表。向井山の関心は一貫して、音楽が演奏される空間とそれに関わる人間(演奏者、観客)が音楽をどのように受け止め、またその空間を知覚するかにある。日本とオランダ、自身のあるいは他者の身体性、セクシャリティ、演奏と記憶などをテーマに異なるテーマを横断し侵犯しながら共存をめざす作品の演奏・制作を続けている。2007年、向井山朋子ファンデーションをオランダに設立、2015年には日本で一般社団法人マルタスを設立しプロデュースの分野でも活躍。音楽のみならず美術、建築、ファッション、ダンス、写真など幅広い分野とのコラボレーションで独創性を発揮している。 <https://multus.tomoko.nl/>



© Kiriko Mechanicus

若林朋子

プロジェクト・コーディネーター／

立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科特任准教授

デザイン会社勤務を経て英国で文化政策を学ぶ。1999～2013年企業メセナ協議会勤務。プログラム・オフィサーとして、企業が行う文化活動の推進と芸術支援の環境整備に従事。13年よりフリー。事業コーディネート、執筆、調査研究、評価、助成制度設計、自治体の文化政策やNPO支援等に取り組む。NPO理事（芸術家と子どもたち、JCDN、芸術公社、ワンダーアート）、監事（アートプラットフォーム、ON-PAM、音まち計画、アーツエンブレイス、TPAM）。16年より社会人大学院教員。社会デザイン領域で文化、アートの可能性を探る日々。



Photo: Yuri YASUDA ©Ko Na design

モデレーター

大館奈津子

芸術公社／一色事務所

芸術公社一色事務所 一色事務所にて、荒木経惟、森村泰昌、笠原恵実子、やなぎみわ、藤井光のマネジメントに携わる。2010年よりウェブマガジン「ART iT」の編集を兼任。『ヨコハマトリエンナーレ2014』ではキュレイトリアル・アソシエイツを務めた。これまで担当したプロジェクトとして『やなぎみわ Windswept Women: The Old Girls' Troupe』（ヴェネツィアビエンナーレ日本館、2008年）、『Yasumasa Morimura: Theater of Self』（ウォーホール美術館、ピッツバーグ、2013年）『荒木経惟 往生写集』（豊田市美術館、新潟市美術館、資生堂ギャラリー他、2014年）など。またReFreedom_Aichiやartforall等、アーティストたちの活動現場に運営や制作の立場で積極的に介入している。



photo: Naoaki Yamamoto

CONTEMPORARY ART AFTER THE CORONAVIRUS AND ITS ECOLOGY

SESSION 4

Art After COVID-19 : The Issues of Expression and Support
from the Perspective of Artists

コロナ以降の 現代アートと そのエコロジー

第4回

コロナ以降の美術とは？
アーティストの視点から見る表現・支援の課題

Bunka-cho Art Platform Japan Webinar Series Contemporary Art After the Coronavirus and its Ecology Session 4: Art After COVID-19 The Issues of Expression and Support from the Perspective of Artists

Bunka-cho Art Platform Japan, a project initiated by Bunka-cho, Agency for Cultural Affairs Japan, presents a series of webinars titled “Bunka-cho Art Platform Japan Webinar Series: Contemporary Art After the Coronavirus and its Ecology” that proposes to discuss the dissemination of the arts in the COVID-19 era. This series will be held in five parts.

The theme of Session 4 is “Art After ‘COVID-19’: The Issues of Expression and Support from the Perspective of Artists.” Has COVID-19 created “the new normal” for arts institutions? How will forms of artistic expression be affected by new physical restrictions on exhibition spaces such as museums and galleries, as well as by logistical restrictions on the transport of people and objects across state borders? Furthermore, the vulnerability of economic and social structures inundated by globalism and neoliberalism has rapidly brought to light existing cultural issues, notably: class disparity, racism, and xenophobia. Meanwhile, the international community has been urged to respond quickly to the geopolitical issue of climate change. How will the pandemic and the associated heightened sense of globality—something which drastically changed the world over the course of a mere few months—be reflected in future artistic expression? Moreover, what are some viable methods of support for artists and their assorted activities? The discussion will take place from the perspective of the artists themselves.

Program Overview

Bunka-cho Art Platform Japan Webinar Series: Contemporary Art After the Coronavirus and its Ecology Session 4: Art After COVID-19 The Issues of Expression and Support from the Perspective of Artists

Date & Time: Friday, December 4, 2020, 6:30pm-8:00pm (JST)
Languages: Japanese (Simultaneous Japanese-English interpretation is provided)
Organizers: Contemporary Art Committee Japan (CACJ), Bunka-cho Art Platform Japan

Speakers:

- Kawakubo Yoi (Artist)
- Mukaiyama Tomoko (Pianist / Artist)
- Wakabayashi Tomoko (Project coordinator / Specially Appointed Associate Professor of Rikkyo University, Graduate School of Social Design Studies)
- Moderator: Odate Natsuko (Arts Common Tokyo / Yoshiko Isshiki Office / CACJ Committee Member)

Program:

6:30pm-6:35pm Opening remarks and introduction from the moderator
6:35pm-7:05pm Presentations from the speakers
7:05pm-8:00pm Discussion and Q&A

Aims

Due to the current coronavirus epidemic, immense challenges have been posed to both arts institutions and contemporary art professionals across the globe. By sharing the numerous issues being tackled by innumerable parties globally that the pandemic has raised, this program aims to discuss and exchange both concrete and speculative ideas regarding the global dissemination of the arts in the post-pandemic era. The program also aims to cover the conductive research into the most potentially suitable forms of future international exhibitions for arts institutions.

The objective of Art Platform Japan is to establish a foundation for the sustainable development of the contemporary art scene in Japan. As part of these efforts, in the 2018 and 2019 fiscal years, the bureau organized the first two installments of annual invitational workshops (with select public programming) to establish an international network of art professionals of curators, researchers, artists, and so on. The 2020 edition of the workshop, also organized by Contemporary Art Committee Japan—the steering committee of this initiative, was scheduled to take place in the fall of 2020; however, due to the global coronavirus pandemic, the committee had to forego holding an event in the intended scale and format.

On the other hand, the current state of the global pandemic brings to light the importance of an international and mutually beneficial network of arts professionals. The unsure future of practices such as cross-cultural exchange programs, global promotion, international shipping, research, and residencies have become particularly evident and all demand to reconsider such programs on a global scale.

How might we confront and deal with the current situation? By returning to the starting point of this initiative — to better the international reputation of contemporary art in Japan — we will hold a five-part webinar series that will further the discussion of the post-COVID-19 conditions of international exchange, international exhibitions, curatorial efforts, artist support and expression, and the ecology surrounding the international art scene. The webinar will be live-streamed online to a global audience. The archival footage will be uploaded on the Art Platform Japan website, due to launch in March of 2021.

About Bunka-cho Art Platform Japan

Bunka-cho Art Platform Japan, a project initiated by Bunka-cho (the Agency of Cultural Affairs) aims to maintain the sustainable development of the contemporary art scene in Japan, to gather a wide range of counsel from professionals in the field, and to promote methods to further the international reputation of Japanese artists and artists working in Japan. With Contemporary Art Committee Japan (CACJ) as the steering committee, the various working groups that comprise this project strive to establish an international network of experts to conduct research, to produce translations of important and overlooked texts on contemporary Japanese art, to facilitate the dissemination of information within and outside Japan through the use of digital media, and to build a database that collects vast information of artworks held by museums across Japan, and ultimately to provide an environment that supports art activities.

<https://www.bunka.go.jp/english/policy/artplatform/index.html>

Session4: Speakers

Kawakubo Yoi

Artist

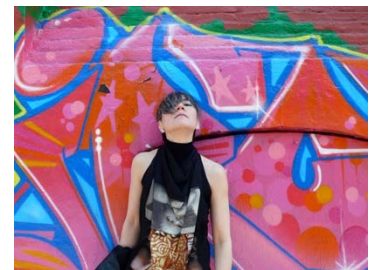
Following his time working as a financial market trader, Kawakubo embarked on his artistic career in 2008. Recent solo exhibitions include *Two million years of solitude, cherry blossoms and fifty thousand light years more* (Koganecho Site-A, Yokohama, 2017), *Stella Maris was a name I found in a dream* (Daiwa Foundation Japan House, London, 2016), and *Fall* (Shiseido Gallery, Tokyo, 2016). Recent group exhibitions include: Yokohama Triennale 2017: *Islands, Constellations and Galapagos* (2017), *Linguamania* (Ashmolean Museum, Oxford, 2017), *The Vision of Contemporary Art* (The Ueno Royal Museum of Art, Tokyo, 2015), *Visceral Sensations* (21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa, 2013). He has won the Ohara Museum of Art Prize at the VOCA 2015 The Ueno Royal Museum of Art, Tokyo, and has been shortlisted for the Shiseido Art Egg Prize in 2016 and the Sovereign Asian Art Prize (Hong Kong) in 2012. He has been recipient of the POLA Art Foundation award for overseas research in 2016 and Fellow of Overseas Study Program for Artists, Agency for Cultural Affairs, Government of Japan in 2017.



Mukaiyama Tomoko

Pianist / Artist

Tomoko Mukaiyama is a Dutch-Japanese pianist, visual artist, and director based in Amsterdam. In 1991 she was the first Japanese pianist to win the prestigious Dutch Gaudeamus competition and in 1993 she won the Muramatsu Prize in Japan, which is awarded to an outstanding musician. She has been engaged by many prestigious orchestras and ensembles throughout the world, like the Ensemble Modern in Frankfurt, the London Sinfonietta, and the Royal Concertgebouw Orchestra, among many others. Mukaiyama pushes on the boundaries of the classical music world. She has a fascination for offbeat contemporary art projects and plays with the conventions around her instrument, her profession and its performance. Mukaiyama uses her experience as a concert pianist to give a new dimension to the concert space. As a multi-modal artist, she develops performing arts projects and art installations that combine music with modern dance, fashion, and visual art. In 2007, Tomoko Mukaiyama Foundation was founded in The Netherlands. In 2015, Multus was founded in Japan with the objective to produce new pieces. The foundation and the corporation aim to produce novel collaborations that are inspired by Mukaiyama's artistic vision of intertwining different contemporary art and music forms. <https://tomoko.nl/>



© Kiriko Mechanicus

Wakabayashi Tomoko

Project coordinator / Specially Appointed Associate Professor of Rikkyo University, Graduate School of Social Design Studies

After working for a design firm, Wakabayashi returned to college to study cultural policy and arts management in the U.K. From 1999 to 2013, she worked for the Association for Corporate Support of the Arts as a program officer developing an effective environment and ways for corporations to support the arts and culture. Currently, she works across a wide range of arts and social projects as an independent coordinator, including writing, research, program evaluation, consulting for corporations, foundations, municipalities, and the arts. Her interest presently lies in exploring the potential of arts and culture in the field of social design.



Photo: Yuri YASUDA ©Ko Na design

Moderator

Odate Natsuko

Arts Common Tokyo / Yoshiko Isshiki Office

Since 2000, Natsuko Odate has managed many leading Japanese artists, including Nobuyoshi Araki, Yasumasa Morimura, Emiko Kasahara, and Miwa Yanagi. She has also served as an editor of online magazine ART iT since 2010. She was a Curatorial Associate of the Yokohama Triennale 2014. Her other art exhibition and events include *Miwa Yanagi: Windswept Woman – The Old Girls' Troupe* (Venice Biennale, Japan Pavilion, 2008), *Yasumasa Morimura: Theater of Self* (Andy Warhol Museum, Pittsburgh, 2013), *Nobuyoshi Araki: Ojo Shashu* (Toyota Municipal Museum of Art, Niigata City Art Museum, Shiseido Gallery, et al, 2014). Through her active involvement in artist-run-organizations such as ReFreedom_Aichi and artforall, Odate offers her expertise in artist and production management.



photo: Naoaki Yamamoto